

*東日本大震災の時によく引用された詩篇

「神はわれらの避け所また力。苦しむときそこにある強き助け。それゆえわれらは恐れない。たとえ地が変わり山々が揺れ海のただ中に移るとも。4 たとえその水が立ち騒ぎ泡立ってもその水かさが増し山々が揺れ動いても。セラ」詩篇 48:1-3

大地が揺れ動き、水が立ち騒ぎ泡立って、水かさが増して、山々が揺れ動く。大震災はまさに、このような天変地異が、現実のこととして起きた。詩篇を詠った詩人は、はっきり「われらは恐れない」と告白している。「凄い信仰だなあ」と思う。ところが、今回は、弟子たちが、大自然の脅威に震え上がり、あたふたする場面が記録されている。かつての詩人たちのような確信に満ちた信仰と、弟子たちの姿はだいぶかけ離れているように見える。

*主イエス様をお乗せした人生にも危機が来る

主イエス様が一緒に乗っている船は、一番安全、最も安心できる航海になるはずだろう。ところが、恐ろしいことが起きた。これは、信仰が与えられて、主イエス様を人生の航海に迎え入れて、主と共に歩んで行こうと決意したはずなのに、信仰の試練に遭う場合と似ている。主イエス様をお乗せした人生にも、危機が来る。主イエス様は弟子たちの慌てふためく姿とひねた言葉に対して、どのような見方をしただろうか？ 40節

「イエスは彼らに言われた。「どうして怖がるのですか。まだ信仰がないのですか。」」これは主イエス様以外のものを怖がるな！「わたしこそが主なる神だ」と示している。主イエス様に堅くすがることができない、主イエス様に全き信頼をおき続けることができない、これこそが不信仰である。しかし、私たちが、困難や危険にさらされれば、さらされるほど「どうして怖がるのですか、まだ信仰がないのですか」と問い掛けて下さり、私が誰に属する者であるのか、教えて下さり、励まして下さる。そして、主は逆転勝利へと導いて下さる力強い味方なのだ。

*主イエス様はどなたですか？主の憐れみに生かされる人生

41節「彼らは非常に恐れて、互いに言った。「嵐や湖までが言うことを聞くとは、いったいこの方はどなたなのだろうか。」」いったいこのお方、イエス様はだれだろうか？ この方こそ、まことに神様で、まことの人間である救い主キリスト(メシヤ)なのだ。主イエス様は、私の苦しみ、恐れ、困難、をよく知っておられて、憐れみを示して下さる救い主である。主は私たちの助けを求める叫びに応えて下さるのだ。